



\*教科書P.60の  
問題文

〈めあて〉ねだんの上がり方の比べ方を考えよう

〈まとめ〉もとにする大きさがちがうときは、倍を使って比べることができる。

ノート	筆箱
120円	1500円
↓ 30円	↓ 30円
150円	1530円

2000年の値段(120円, 150円) ← もとにする, 1とみる

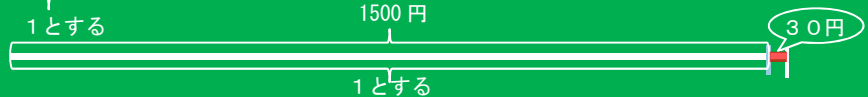
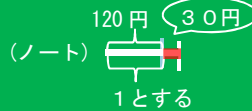
2010年の値段(150円, 1530円)

何倍になっているか?

ノート  $150 \div 120 = 1.25$  答え 1.25倍  
 筆箱  $1530 \div 1500 = 1.02$  答え 1.02倍

ねだんの上がり方は同じ?

- ・どちらも30円だから同じ (ノート)
- ・筆箱の方が高い
- ・もとのねだんがちがうから分らない



ノートは1.25倍で筆箱は1.02倍。だから、ノートのほうが値段の上がり方は大きい。

### 1 指導内容 (新学習指導要領解説編から)

小学校算数科編より

小数の除法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことやある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを理解すること。

### 2 本時のねらい

基の値段と値上がり後の値段に着目し、差による比較の他に、基の値段に対して値上がり後の値段が何倍にあたるかを求めることを通して、倍を使って比較できることを理解する。

### 3 「深い学び」の礎となる「見方・考え方」を働かせるための発問の意図

**引** 【「見方・考え方」を引き出す発問】

差による比較では解決できないことに気づき、倍の比較で考える課題を見いだすようにする。

**鍛** 【「見方・考え方」を鍛える発問】

倍を使って比較すると、比べやすく分かりやすいことに気付かせるようにする。

### 4 「主体的な学び」・「対話的な学び」の重点

【主体的な学び】

差による比較では、適切に比べることができないこと自覚し、既習事項を用いて課題解決に取り組むことができるようにする。

### 5 学習過程

段階	主な学習活動と予想される児童の反応	・指導上の留意点, 口評価の観点【評価方法】												
導入 10分	1 前時の学習を想起する 2 本時の問題を知る T <b>引</b> ノートと筆箱の値段の上がり方が大きいのはどちらだと思いますか。その理由は何でしょう。 [引③] C1 ノートの方が大きいと思います。ぼくがいつも買っている120円ノートが急に150円になったら、値段が高く上がったと感じるからです。 C2 筆箱だと思います。ノートの値段と比べたら筆箱の値段が1530円なのは、とても高く感じます。 C3 どちらも30円しか値上がりしていないから、同じだと思います。 C4 この値段だけでは、比べて考えられないです。何か別の方法で、比べられるといいと思います。	・指導上の留意点, 口評価の観点【評価方法】 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td>ノート</td> <td>筆箱</td> </tr> <tr> <td>(2000年)</td> <td>120円</td> <td>1500円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>↓ 30円</td> <td>↓ 30円</td> </tr> <tr> <td>(2010年)</td> <td>150円</td> <td>1530円</td> </tr> </table> ・値段や値上がりの差だけでは、正しく比較できないことに気付くようにする。 ・それぞれの値段や値上がりの差に着目できるように、2000年と2010年のノートと筆箱の値段を見比べるようにする。 ・ノートと筆箱の値段がどちらも30円値上がりしていることを確認し、値段と値上がりの差だけでは比較が難しいことに気付かせていく。		ノート	筆箱	(2000年)	120円	1500円		↓ 30円	↓ 30円	(2010年)	150円	1530円
	ノート	筆箱												
(2000年)	120円	1500円												
	↓ 30円	↓ 30円												
(2010年)	150円	1530円												

	<p>3 本時のめあて</p> <p>〈めあて〉ねだんの上がり方を考えよう</p>	
<p>展開 25 分</p>	<p>4 比べ方を考える</p> <p>T 前時まで学習したことを使って、比べることはできないでしょうか。</p> <p>C5 これまで何倍かを求めたり、基にする量を求めたりした学習があったと思います。</p> <p>C6 道のりの学習で、それぞれ道のりは違っていたけど、基にする量を考えて、何倍になっているかを出して、何倍かで考えました。</p> <p>C7 ノートと筆箱の値段もそれぞれ違うから、何倍になるかで比べたいと思います。</p> <p>C8 教科書58ページで、基にする大きさの何倍かを計算をしたから、それで考えるといいと思います。</p> <p>T 基にする大きさを何にするか考えて、求め方をノートに書いて、となり同士で話し合ってみましょう。</p> <p>C9 基にする量を2000年の値段にして、2010年の値段がそれぞれ何倍になったかを計算したよ。</p> <p>C10 私も同じ考えて、120円と1500円を基にしたから式はこうなったよ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <math>150 \div 120 = 1.25</math>    答え 1.25 倍  <math>1530 \div 1500 = 1.02</math>    答え 1.02 倍 </div> <p>C9 ほかも同じ計算をしたよ。1.25倍の方が大きいから、ノートの値段の上がり方が大きいね。</p> <p>5 全体で比べ方と値段の上がり方を確認する</p> <p>6 倍で比べることを考える</p> <p>T <b>鍛</b> 基にする量がそれぞれ違うときは、どのようにして比べればいいでしょう。 [鍛②]</p> <p>C11 基にする値段がちがうこの問題のように、何倍になっているかを求めて比べればいいと思います。</p> <p>C12 基の量に対して何倍かを出せば、この問題の1.25倍や1.02倍みたいに分かりやすくなります。</p> <p>C13 基の量から何倍になっているかを考えると比べやすいです。</p> <p>〈まとめ〉もとにする大きさがちがうときは、倍を使って比べることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決するために、既習の学習から求められないかを考えるようにする。</li> <li>基の量が違うときは、倍を使って比べることに気付かせていく。</li> <li>倍を求める計算を確認するために、教科書58ページの内容を振り返らせる。</li> </ul> <p><b>知識・理解</b></p> <p>目的に応じて倍を求めて比較する場合があることを理解することができる。</p> <p style="text-align: right;">【ノート・発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2000年の値段を基にして2010年の値段が何倍になっているかを計算すればよいことを共有する。</li> <li>それぞれ値段が違うときは、小数倍で比較できることを捉えるようにする。</li> <li>倍を求めて比較すると比べやすく、分かりやすいと考えられるようにする。</li> </ul>
<p>終末 10 分</p>	<p>7 適用問題に取り組み、学習を振り返る</p> <p>T 学習で分かったことや気付いたことを書きましょう。</p> <p>C14 どちらも30円値上がっているから、値段の上がり方も同じだと思っていました。でも、何倍になっているかを計算してみると違うことが分かりました。</p> <p>C15 基にする量が違うものを比べたいときは、何倍になるのかを計算して、比べてみたいと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習感想では、めあてを振り返らせて学んだことなどを書くようにする。</li> </ul>